



考えること、
やるべきことは
限りなくありました

よこすか こういち 横須賀 幸一

富岡町観光協会 事務局長

昭和30年（1955）、富岡町生まれ。
高校を卒業し、役場勤務。富岡町青果市場を約6年間担当し、1980年に本庁。
震災時は対策本部で活動。以後2015年の定年まで富岡町の復興に尽力する。
2015年4月より商工会事務局長、2017年より現職。

役場職員として退職までの5年は、対策本部で復興の職務に携わりました。
防護服に身を包み、最初に町に足を踏み入れた時の複雑な気持ちが
今も忘れられません。避難所運営もままならず、町民の所在を把握することも困難。
町がどうなっているかも分からない中で、それでも復興計画を進めることが
仕事でした。住民からも情報を集めながら立てた計画は、
線量が壁になり議会の承認がなかなか得られない。
国にも確かな情報がなく、どう進めるかは手探り。
考えること、やるべきことは限りなくありました。
指定廃棄物最終処分場の受け入れ検討が始まったタイミングで生活環境課に異動。
町民の声を聞きながら国と交渉する仕事は腹を括ってやるしかなかった。
「受け入れて良かったと思えるようにする」と心に決め、
問題を一つ一つクリアして、議会や町民が納得するまで検討。
安全性担保だけでなく情報提供するための施設の設置も決めました。
情報館は、地域の人が集まる場にもなる予定です。観光協会では富岡町を
知ってもらうことをやっていきたい。さまざまな団体と連携してアイデアを
生み出しながら、今後も自分の役割を果たしていきたいと思っています。



夜の森の桜並木のライトアップ。点灯式ではよさこい踊りが披露された【2020年12月3日付福島民報掲載写真】